めぐる伝統、深まる学び、広がる技術
～新しい学校教育のあり方を求めて～

"めぐるもの"ってなんだろう。そう思った時、物理的なものだけでなく、時や想い、愛情などの"めぐりもの"こそ重要で、めぐり、結ばれていくべきではないか、そう考えました。もちろんさまざまな想いから、時、想い、愛情が結ばれった「伝統」がめぐる環境を目指しました。

地域企業・学校で実践的な学びと伝統継承を

現代社会において、私たちは「少子化」や「後継者不足」、「物資不足」といった社会的課題に直面しています。そして、学校の統廃合が進む中、統合後に校舎を解体するのが、その地域に残る貴一度の伝統が途絶えてしまいます。そこで私たちは、統合後も校舎を有効活用し、広い校舎の中に地域企業のオフィスや作業場を併設することで、学校と企業の連携を促進し、学生の実践的な学習と後継者不足の改善、教員の業務負担の軽減ができる学校を提案します。さらには、OBに限らず配の職人が、学生のカを借り、老朽空間での情報発信をすることで、技術を広めることにも貢献できます。私たちは、伝統をキニに繋がる人々の想い、地域活性をもめざしながら、新しい学校のあり方を提案します。

1. 計画地域

岐阜地域は日本の中心に位置する地域です。地域全体は、世帯数の減少が問題となっており、平成27年度から令和5年度までの7年間で中学校の卒業者数が約3割以上減少しています。（参考：岐阜市教育委員会 「岐阜市の教育」より）また地域全体は、ふるさとへの愛着はあるものの、地域に積極的に関わり活動できる人材を育成するために、地域に貢献したキャリア教育の発達を図っています。

さらに地域全体は、古くからものづくりが盛んで、製造業が中心的な産業となっています。また、「地を通じて、地域の自然条件に応じたさまざまな農作物の生産が行われています。ファッション、陶磁器、機械・工業、印刷、紙、プラスチック、食品などの特色ある地場産業で栄えています。

2. 新しい教育のあり方

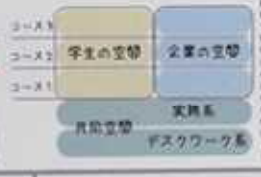
この高校は、3校の高校の統合によってできた総合学科の高校です。従来、3校の高校が統合されれば、1校の教育の校舎のみが残れば、残りの2校は廃校や解体となってしまう場合が多くなってです。しかし、私たちが提案する学校は、3校全すべてを残して、少子化によって必要なくなった教室を活用して、地域企業のオフィスや作業場を設置するという新しい学校統合の形です。こうすることで、実践的な学びを実現でき、企業側も後継者不足の改善を図ることができます。また、ちょうどの校舎は、大学のキャンパスのように、1校全に学科を設置し、学生は3つの校舎を"めぐり"ながら、各分野の専門を極めていきます。

この学校では、普通科目の授業に加えて、オンライン授業を採用します。また、実習は地域企業の社員が教師となるため、学生が"生きた技術"を身につけることが出来ます。このような"オンライン授業の活用"、"地域企業の社員による実習"によって、教員の業務負担の軽減を図ります。

従来の学校統合

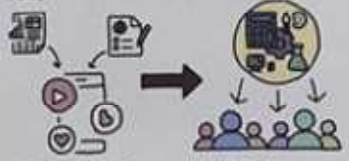
新しい学校統合

断面ダイヤグラム



3. 情報発信

「こんなの書いてなんの意味があるんだろう」そんな声が挙がってくる"実習レポート"。そんな、一般的には無駄だからだれがもらレポートをこの学校では情報発信の道具として使います。地域企業との連携によって行われる実習のレポートをSNSを通じて公開することで、伝統技術を広めることができ、学生にとっても、自作のレポートが国内に見てもらえるという意識から、よりよいレポート作成に繋が、実習での学びの質を高めることが出来ます。また、OBに限らず配の職人にとっては、老朽空間での情報発信が後継者不足改善の手助けとなるでしょう。



実習レポートをSNSで公開！

伝統技術が多くの人の目に届く！

4. プロジェクトロゴ

このロゴは、ぎふUNITYの名称は、この学校と連携を結ぶ企業が使用できるものです。これらの使用によって、企業イメージの向上と統一感によって、地域力を高めることが期待されます。また、このロゴを使って、生徒が作った作品や、書作物を販売することもできます。

5. カリキュラム

1年次は、工業・農業・商業の3分野・3校全を1学期ごとに回って学び、自分のやりたいことや、将来の目標を考えながら、専門する分野を選択します。2年次以降は、工業科・農業科・商業科に分れ、それぞれの校舎での実習を中心として学びます。さらに3年次の時は、それぞれの学科に設置されたコースに分かれ、より専門的な学習をします。

地域産業の特色を活かしたコースとして、工業科には、工芸デザインコース・インテリアコース・産業システムコースのコース、農業科には、園芸コース、畜産コースのコース、商業科には、地域ビジネスコース、国際経済コースのコースを設置します。

6. 学生・社員の一日

↑学生の時間割例（1年生）

↑連携企業の社員のスケジュール例

普通科目はオンライン授業を採用しているため、学生はどの校舎からでも授業を受けることができます。実習や授業、HR（ホームルーム）などは教室での授業や部活動がある日は、それぞれの校舎に集まります。一方、教室での授業がない日は自宅から近い校舎で授業を受けたりと、学生が自ら考えて自由に受講場所を選択することができます。

連携企業の社員は、主に実習授業で、現在活動の指導などで生徒との関わりを持ちます。教室での授業以外は、学生と同じように、好きな場所で仕事をすることができます。各校舎の1～2階は、学生と社員が共同で使える作業スペースがあり、学生との関係を室内外から作業をすることができます。

7. 実習例・連携産業例

この他にも、工業科は、地域活性や農作活用を学ぶ実習、農業科は、農花を体験する実習、商業科は、工業科・農業科で作られた製品を販売する実習などができます。また、分野分野を超える実習を行い、複数の実習人材を育成します。